

干潟環境教育プログラムの開発と 有明海における干潟ネットワークの構築

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

プログラムに参加した
子ども 169人

荒尾干潟で確認された
生きもの 145種

今年度計画の達成度 80%

目標達成度 90%



「干潟の生きもの調査in荒尾干潟」の様子

課題

干潟や干潟に生息するカニや貝などの底生生物(ベントス)について学習する機会が少なく、干潟の魅力や価値(水質浄化機能、水産資源など)が認識されていない。

目標

干潟での体験を中心とした環境教育プログラムを開発し、地域の人たちと共にプログラムを実施することで、長期的に干潟保全を担う次世代を育成する体制を構築する。

活動内容と成果

- 荒尾干潟の近くで暮らしている子ども達を中心に、干潟環境教育プログラムを5回実施。計169人が参加
- プログラムを実施する指導者の育成を行い、指導者が4人誕生した。また、プログラムに積極的に関わるサポートスタッフも4人育成された
- 荒尾干潟の現状を把握するために専門家と共に、生物調査を実施。145種を確認
- 荒尾干潟、東よか干潟、肥前鹿島干潟に加え、くじゅう坊ガツル・タデ原湿原、屋久島永田浜の九州の五つのラムサール条約登録湿地の交流事業を実施した。九州の湿地ネットワークが強化された



九州の湿地で活動する子どもたちの交流

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

学校によって子どもの人数のバラつきが大きく(15~70人)、子どもの人数にあわせた実施体制(指導者・会場・道具)を構築するのに苦労した。

■工夫した点

少ない人数でもプログラムを実施できるようにするために、各自の役割を明確にして全員に共有するように掛けた。また、指導者・スタッフ等の人材育成を行った。



捕まえてきたベントスの名前を調べる

全助成期間の活動を振り返って

近くに干潟があるのに「知る・楽しむ」という面で、干潟を十分に活用できていない地域の人たちに対して、団体が持っている知見、専門家との繋がりを生かして、何かできないかと思いこの活動を始めた。3年間、地域の人と一緒に調査、干潟環境教育プログラム開発を進め、地域の人材の育成を行ったことで、干潟を活用した活動、干潟の価値、生物調査をすることの重要性を地域の人に理解してもらうことができた。

| 活動地域 | 熊本県、佐賀県

〒103-0011
東京都中央区日本橋大伝馬町17-1城野ビルⅡ 2階
電話: 03-5614-2150
E-mail: info@wi-japan.org
<https://japan.wetlands.org/ja/>



今後の
展望

持続可能な社会のためには、子どもたちへの環境教育は重要である。このような活動を継続するためには、子どもたちに自然の重要性や生活との関わりなどについて指導できる人材の育成が重要である。そのため、今後は将来を支える次世代を育成するために欠かせない地域の人材(大人)を育成していきたい。
また、国内のラムサール条約登録湿地52か所を中心に、各地の取組みを情報収集し、評価し、広く発信していく予定である。